

佐賀市文化財調査報告書第23集

開成小學校内遺跡

平成2年3月

佐賀市教育委員会

発刊にあたって

この報告書は、昭和63年度に佐賀市教育委員会が佐賀市立開成小学校建設用地の発掘調査を実施した開成小学校内遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書です。

この遺跡面積は6,640㎡に及んでいます。その内、校舎建設敷地の300㎡の調査を行い記録保存とすることにしました。残り遺跡面積の6,340㎡は現状で保存されることになりました。したがって同校運動場下1mに保存されています。

今回の調査で、弥生時代から鎌倉時代にかけての遺構が検出され、弥生土器（甕）、土師器（坏・小皿）、瓦器（埴）、磁器（碗）などの遺物が出土しました。これらの遺物は佐賀市域の歴史を研究する上で重要な資料であります。

この報告書が、古代から中世史研究の学術資料や市民のみなさんの歴史学習の一助になれば幸甚です。

平成元年3月31日

佐賀市教育委員会

教育長 山田清人

例 言

1. 本書は、佐賀市立開成小学校建設に伴い昭和63年度に発掘調査を実施した開成小学校内遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 調査は佐賀市教育委員会が実施した。
3. 調査遺跡の所在地並びに調査規模等は下表のとおり。

遺跡登録番号	2107・5112	遺跡略号	KSG
調査地	佐賀市鍋島町大字森田一本松35番地	開発面積	31,025.57m ²
調査対象面積	6,640m ²	調査実施面積	300m ²
遺跡調査番号	6306	調査期間	平成元年2月20日～23日

4. 発掘作業・整理事業・報告書作成の分担は以下のとおり。

表土除去 (有) 江上建設

遺構測量・実測 木島慎治・福田義彦

遺構・遺物写真 福田義彦

遺物復元 鬼崎玲子

遺物実測・製図 島京子

5. 調査・整理記録及び出土遺物は、佐賀市文化財資料館（佐賀市本庄町大字本庄1,121番地）で一括収蔵している。出土遺物は、佐賀市埋蔵文化財（出土遺物）等整理要綱に基づいて整理している。
6. 本書の執筆・編集は福田義彦がこれにあたった。

凡 例

1. 遺構については略号を用いる。遺構番号の前に分類記号をつけた。分類は以下のとおり。
SD：溝，SK：土壇，P：小穴
2. 原則として、遺構の測定値はm単位、遺物のそれはcm単位とした。
3. 今回の調査区に表示した方位は磁北である。

目 次

I 序説	1	III 調査の概要	2
1. 調査に至る経過	1	IV 調査の記録	3
2. 調査の組織	1	1. 遺構	3
II 遺跡の位置と環境	1	2. 遺物	5
		3. 小結	5

I 序 説

1. 調査に至る経過

昭和63年11月29日、佐賀市長から学校用地開発計画が提示され、埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについての照会があった。昭和63年12月18日付で、埋蔵文化財の確認調査を必要とする旨の回答をした。

昭和64年1月5日から平成元年1月9日まで確認調査を実施した。その結果、開発予定地31,025.57㎡のうち6,640㎡に遺跡が広がっていることが判明した。

本調査地は周知の埋蔵文化財包蔵地以外の地であったため、文化財保護法第57条の6に基づき遺跡発見の通知を提出した。この通知を受け、佐賀県教育委員会は周知の遺跡と認定し、開成小学校内遺跡として登録した。

遺跡が検出されたので佐賀市・佐賀市教育委員会・佐賀県教育委員会で協議を行い、校舎建設により破壊される部分(300㎡)のみ本調査を実施し、残りの6,340㎡については運動場下層に保存するものとした。

本調査は、平成元年2月20日から23日までの4日間実施した。発掘調査で出土した遺跡の復元・実測は、平成元年4月24日から同年5月19日まで行い、佐賀市文化財資料館に保管している。

2. 調査の組織

調査主体 佐賀市教育委員会

調査担当及び事務局 佐賀市教育委員会 社会教育課

教育委員会参事兼社会教育課長 山口喜代治

社会教育課長補佐兼文化係長 中野和彦

事務吏員 甲木亮一

同上 福田義彦(調査担当)

同上 木島慎治(調査担当)

発掘作業員 宮地富士子, 大宝美津江, 坂井初代, 江下和子, 西村美智子, 坂井ツル代, 園田秀子

II 遺跡の位置と環境

開成小学校内遺跡は佐賀市鍋島町大字森田一本松35番地にあり、嘉瀬川中流域東岸1kmの標高4.5mに位置する。近接する周知の埋蔵文化財包蔵地として、北方約200mに鍋島小学校南遺跡がある。確認調査結果から判断すると、当遺跡はその遺跡の延長ではなく別の広がりを持つ遺跡と考えられる。この遺跡の南方1kmに所在する五龍神社遺跡までの間は周知の埋蔵文化包蔵地以外の土地とされているが、今回の遺跡発見により、類似した遺跡が存在する可能性がで

てきたと考えられる。

III 調査の概要

遺跡全体面積6,640㎡のうち300㎡を調査対象としたので全容は解明できなかった。主として、鎌倉時代の所産であることが出土遺物から明確となった。検出した遺構には溝・土壇・小穴、遺物には瓦器坑、土師器小皿などがある。これらの中で特筆すべきものを選び、後述する。

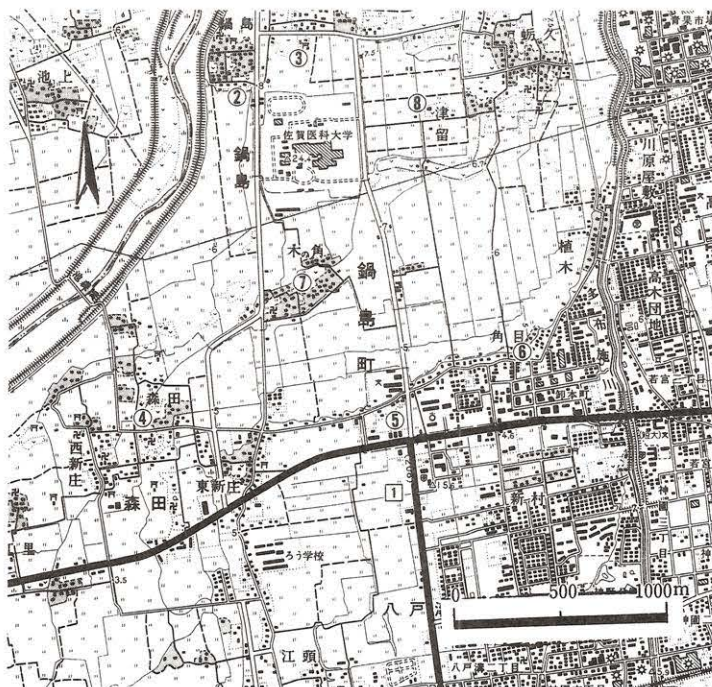


Fig. 1 周辺遺跡分布図

- ①開成小学校内遺跡 ②鍋島本村南遺跡 ③増田遺跡 ④森田遺跡
- ⑤鍋島小学校南遺跡 ⑥角目遺跡 ⑦木角遺跡 ⑧津留遺跡

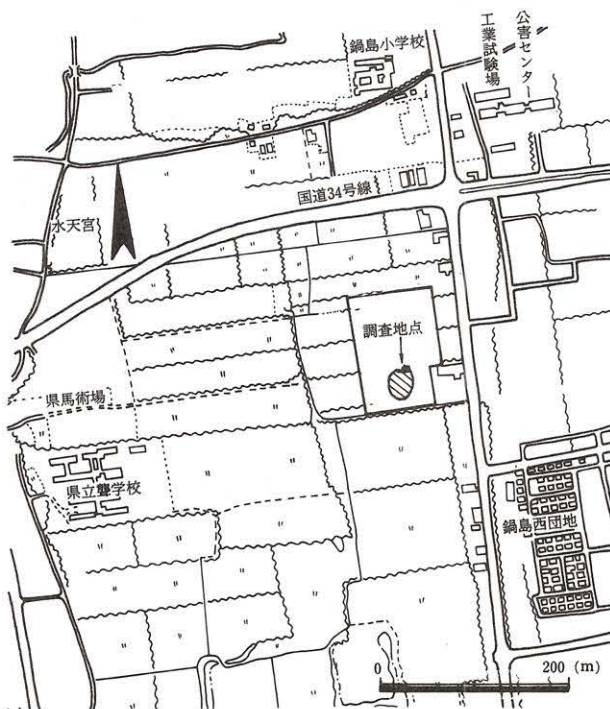


Fig. 2 遺跡周辺見取図

IV 調査の記録

1. 遺構

溝3条, 土壇3基, 小穴2基を検出した。その詳細を後述する。

S K001土壇

調査区の西部にあり, 上面の平面形は隅丸長方形を基調とするものと考えられるが, 東壁上面の破壊が進んでいる。長軸2.43m, 短軸0.76m, 深さ0.16mを測る。床面は淡黄褐色粘土に掘り込まれ, わずかな起伏がある。

埋土は淡黒色で出土遺物は土器細片を検出した。

S K002土壇

調査区の北部にあり, 上面の平面形は楕円形を基調とする。長軸1.18m, 短軸0.68m, 深さ0.18mを測る。底面は舟底状を呈し, 東西の壁は角度をもって立ち上る。

埋土は淡黒褐色を呈する。出土遺物はない。

S K003土壇

調査区の東南部にあり, 上面の平面形は隅丸長方形を基調とするものと考えられる。

長軸1.66m, 短軸0.92m, 深さ0.22mを測る。遺構は淡黄褐色粘土層に掘り込まれ, 床面にわずかな起伏がある。

埋土は淡黒色土と淡褐色土に大別できる。遺物は土器細片を埋土上層から検出したが, 細片のため器種は不明。

溝

南北方向の溝2条, それを切る東西方向の溝1条を検出した。

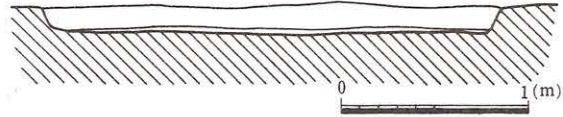
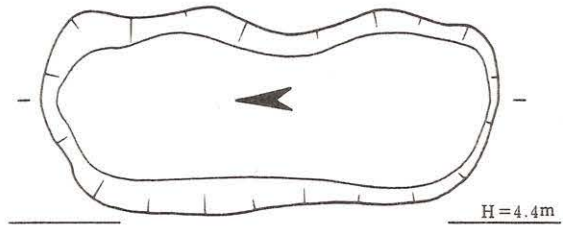


Fig. 3 S K001土壇実測図 (1/40)

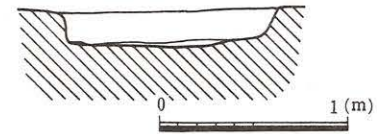
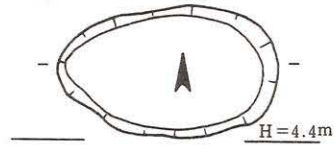


Fig. 4 S K002土壇実測図 (S = 1/40)

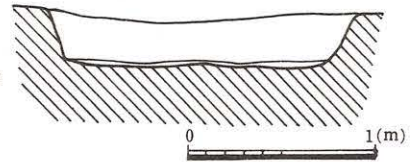
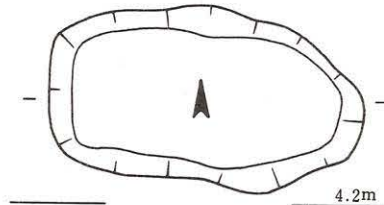


Fig. 5 S K003土壇実測図 (S = 1/40)

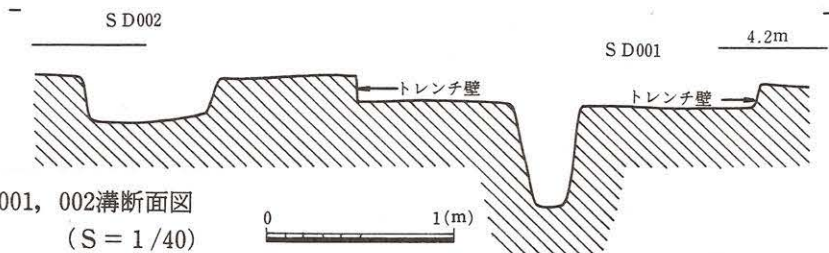


Fig. 6 S D001, 002溝断面図 (S = 1/40)

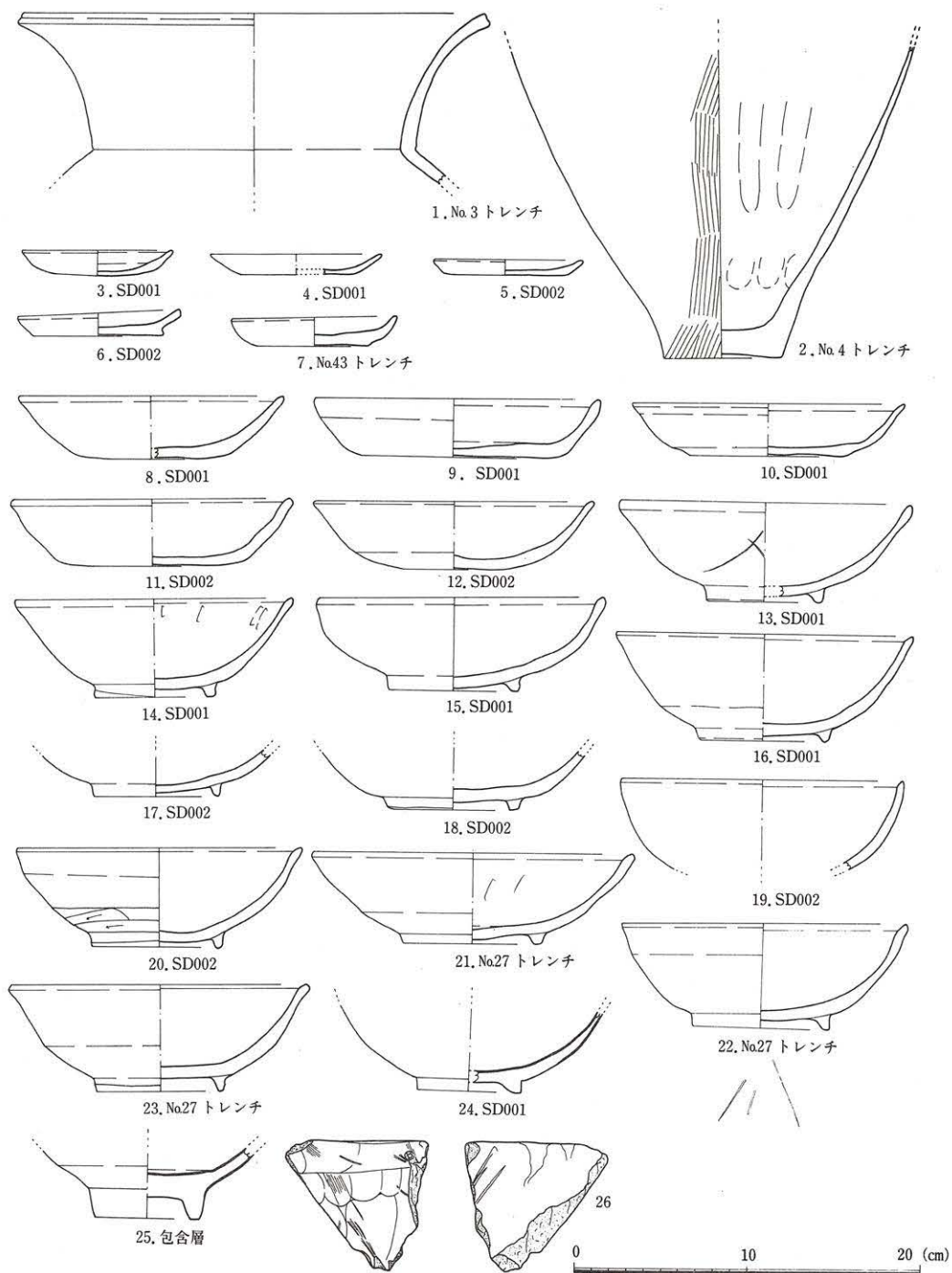


Fig. 7 開成小学校内出土遺物実測図 (S = 1/4)

S D001溝

調査区の中央にあり、全長6.4m、幅0.4m、深さ0.54mを測る。断面は逆台形を呈し、壁は角度をもって立ち上る。この溝の掘込み面は確認調査時に遺構プランを明確にするため0.1～0.15m程度削平しているため、深さは0.7m程度になるものとする。

埋土は上層黒色、下層淡黒色の2層に大別できる。遺物は掘込み下0.3mの間に集中し、瓦器・土師器を検出した。

S D002溝

調査区の中央からやや西に位置し、S D001と1.5m離れ平行してはしる。検出長10m、幅0.72m、深さ0.24mを測る。南部をS D003溝に切られている。断面逆台形を呈し、壁は比較的角をもつて立ち上る。

埋土は黒色を呈し土師器小皿・瓦器壙を検出した。

2. 遺物

発掘調査により、弥生時代・中世の遺物を検出した。それらの中で比較的残存状況が良好なものを選び、その詳細を後述する。

1は弥生土器の壺。口径27.4cm、残存器高10cm。頸部が明確にくびれ、口縁部は外反して長くのびる。口唇部はヘラ状工具による横ナデ。口縁外面に暗紋を有するが一巡しない。色調は淡橙色。2は弥生土器の甕。胴下半部の残存で底径6.8cm。調整は外面ハケ目、内面ナデ。色調は淡灰褐色をベースに一部黒色部分がある。3から7は土師器小皿。口径8.5から9.8cm、器高0.9から1.7cm、底径6.4から7.5cm。底部はヘラ切り痕を有する。8から12は土師器坏。口径13.4から17.8cm、器高3.0から4.0cm、底径6.0から11cm。底部と体部の境界が明確ではない。底部外面は糸切り痕、板目痕を有する。13から23までは瓦器壙。口径16から18.4cm、器高5.3から6.3cm。高台径6.3から8.0cm。調整は主として内面ヘラミガキ、外面ヘラミガキとヘラケズリ、回転ヨコナデを施している。14・15の底部外面に板目が明確に残る。24は磁器碗。外面胴部下半から高台部全域にかけて露胎。釉の色調は淡緑黄色で薄い。器面に細かい貫入が観察できる。底部外面に淡黒色の斑点が認められ、文字の可能性もある。高台径6cm、残存器高4.8cm。25も磁器碗。高台が発達しており、径6cm、残存器高3.8cm。釉は乳白色にわずかに緑を混入したような色調。高台内部は露胎で、その造りは雑。26は滑石製石鍋か。外面はケズリによる面取りが明確に残る。内面は外面に較べ細かなケズリでカーブを造り出している。

3. 小 結

開成小学校内遺跡は推定面積6,640m²を測るものである。確認調査及び今回の一部本調査の結

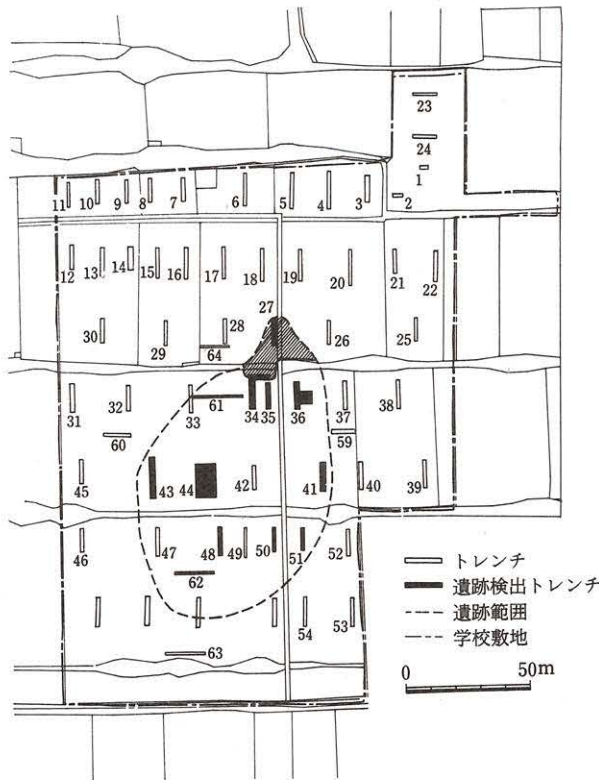


Fig. 8 トレンチ設定図 (S = 1/3,000)

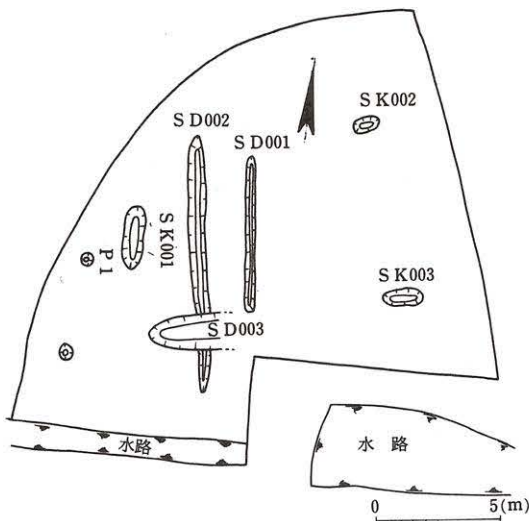


Fig. 9 開成小学校内遺跡遺構配置図 (1/200)

果から判断すると弥生時代と中世に営まれた集落跡と考えられる。

今回の調査では弥生時代の土壙、中世の溝を検出した。このうち中世の所産である土師器小皿・坏、瓦器坑は残存状況も良好で中世土器編年を行う上で好資料となる。

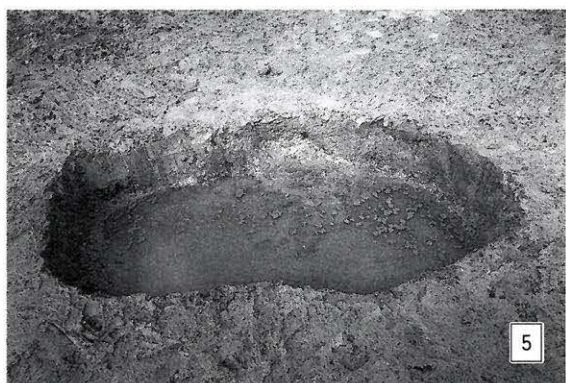
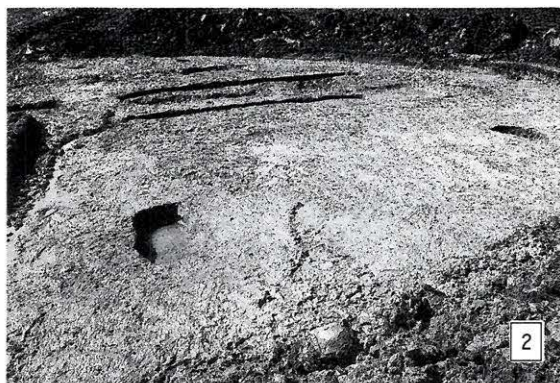
本遺跡周辺は中世にはどのようなになっていたものだろうか。佐賀市史には次のように記されている。与賀新荘は600町の田地を有し、「その所在は明らかであるとはいえない。」としながらも、本遺跡に近接する「東新庄」・「西新庄」の地名に着目し、「正応5年(1292)の時点では新荘と称される荘園は与賀新荘だけであって、そのほかに記されていない。」としている。

このことから考えると本遺跡周辺は与賀新荘域に含まれるのではないだろうか。

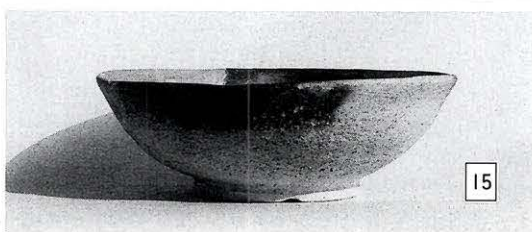
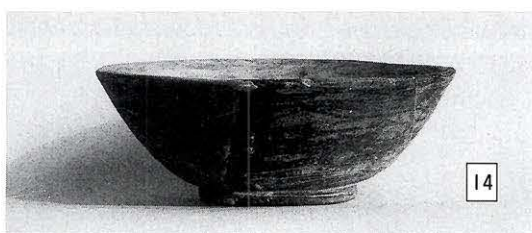
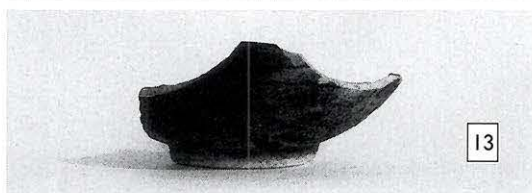
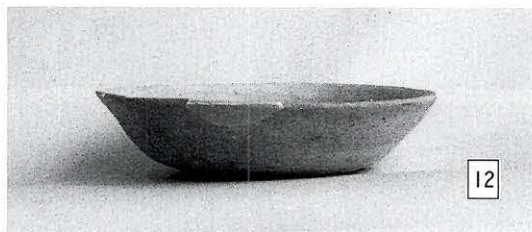
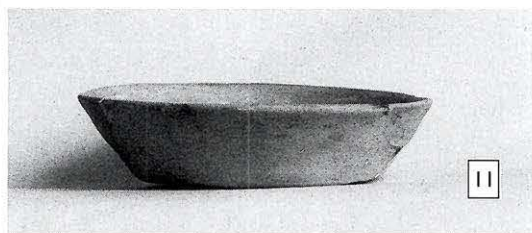
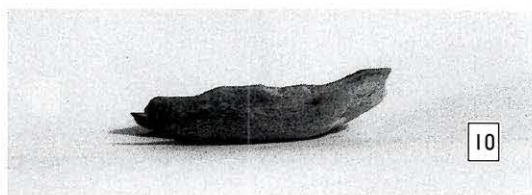
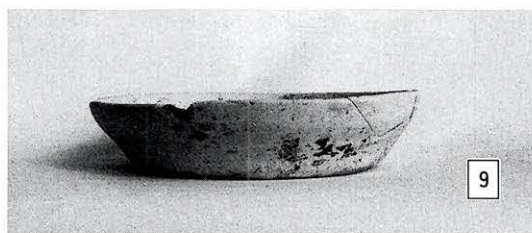
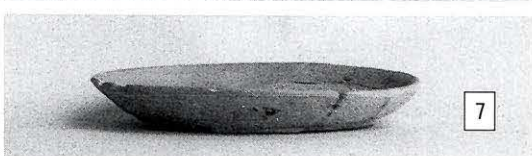
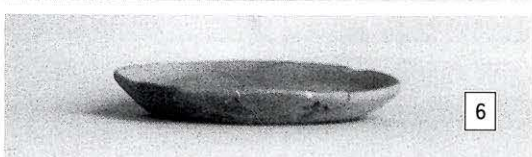
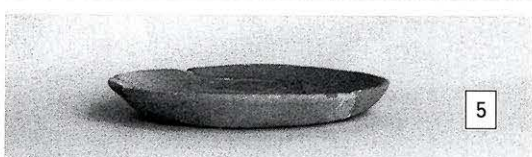
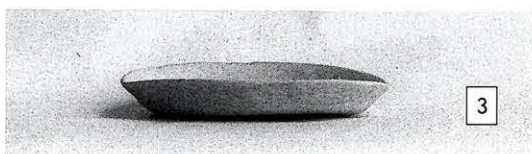
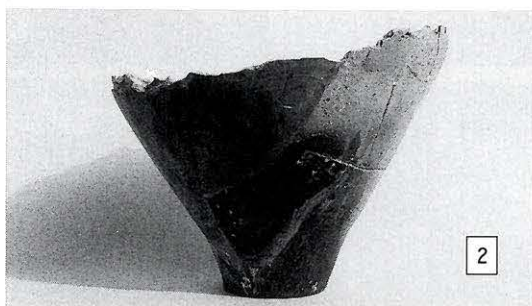
考古学的にはこのことは現在のところ立証すべくもないが、与賀新荘が存在した時期には、同地区は湿地帯、葦原ばかりではなく、人々の営みがあったことが証明された。

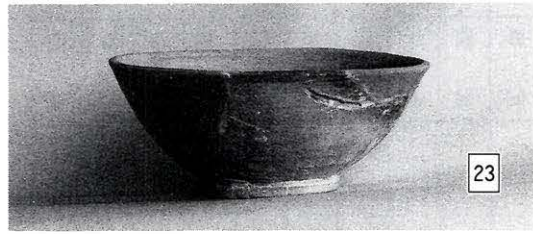
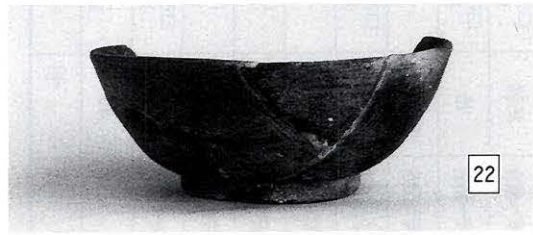
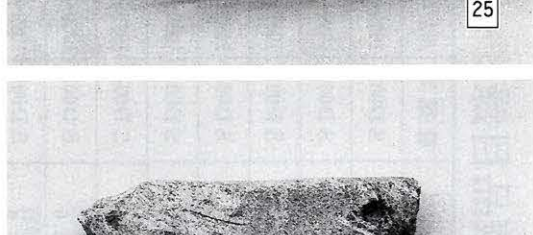
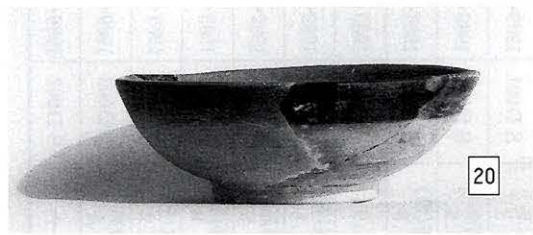
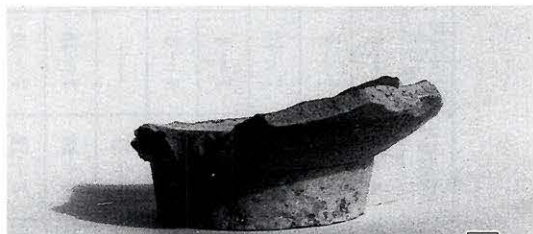
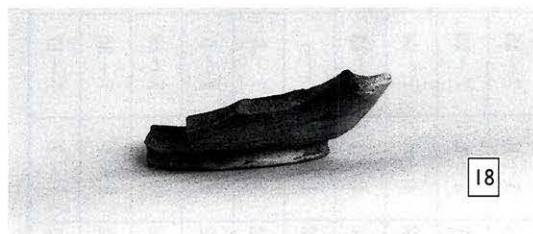
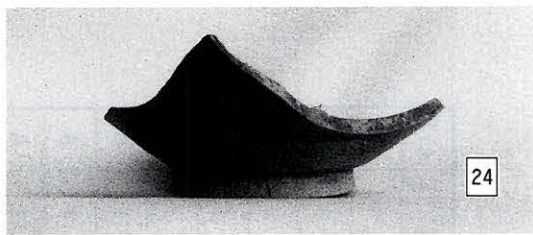
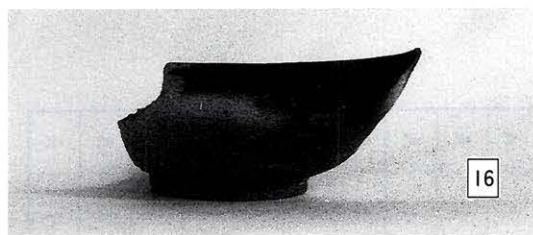
また、この調査は周辺の、周知の埋蔵文化財包蔵地以外の土地にも遺跡が存在する可能性を与えたものである。周知外の調査についても十分に検討していきたい。

参考文献 『佐賀市史』 第1巻



- | | |
|----------------|----------------|
| 1. 調査区全景 (南から) | 2. 調査区全景 (東から) |
| 3. SK001土壌 | 4. SK002土壌 |
| 5. SK003土壌 | 6. SD001溝 |
| 7. SD002溝 | 8. 作業状況 |





SD001 出土 3. 4. 8~10. 12. 13~16. 24
 SD002 出土 5. 6. 11. 17~20
 No.27トレンチ出土 21~23
 No.43トレンチ出土 7. 26

開成小学校内遺跡収蔵品目録

番号	名	称	種	別	時	代	残存率(%)	法	量 (om. g)	遺	構	名	出土年月	実測図番号	報告書掲載 Fig. 番号	コンテナ 番号	A・B
KSG-001	坏		土師器	平安~鎌倉	完	形	口径 16.4	口径 10.9	器高 3.8	S D001		1989・02	4-13	7-9	1	A	
002	坏		土師器	平安~鎌倉	30	口径(推) 13.4	口径(推) 9.0	器高 3.6	S D001		1989・02	4-15	7-8	1	A		
003	坏		土師器	平安~鎌倉	35	口径 17.8	口径(推) 8.9	器高 3.0	S D001		1989・02	5-20	7-10	1	A		
004	小皿		土師器	平安~鎌倉	45	口径 9.8	口径 6.4	器高 1.3	S D001		1989・02	4-18	7-4	1	A		
005	小皿		土師器	平安~鎌倉	90	口径 8.6	口径 6.8	器高 1.7	S D001		1989・02	4-17	7-3	1	A		
006	皿		土師器	平安~鎌倉	15	—	口径(推) 8.6	—	S D001		1989・02	5-21	—	1	B		
007	埴		瓦	平安~鎌倉	90	口径 16.4	高口径 7.4	器高 5.6	S D001		1989・02	4-14	7-15	1	A		
008	埴		瓦	平安~鎌倉	35強	口径(推) 16.0	高口径 6.8	器高 5.8	S D001		1989・02	3-12	7-14	1	A		
009	埴		瓦	平安~鎌倉	35強	口径(推) 17.2	高口径 7.0	器高 6.3	S D001		1989・02	3-10	7-16	1	A		
010	埴		瓦	平安~鎌倉	25	口径(推) 16.8	高口径(推) 6.3	器高 5.8	S D001		1989・02	3-11	7-13	1	A		
011	埴		青磁	平安~鎌倉	不	—	高口径 6.0	器高(残) 4.8	S D001		1989・02	4-16	7-24	1	A		
012	坏		土師器	平安~鎌倉	35	口径(推) 16.0	口径(推) 11.0	3.9	S D002		1989・02	1-1	7-11	1	A		
013	坏		土師器	平安~鎌倉	不	—	口径 10.1	器高(残) 1.8	S D002		1989・02	1-5	—	1	B		
014	小皿		土師器	平安~鎌倉	80	口径 8.5	口径 7.2	器高 0.9	S D002		1989・02	1-3	7-5	1	A		
015	小皿		土師器	平安~鎌倉	ほぼ完形	口径 9.4	口径 7.5	器高 1.5	S D002		1989・02	1-4	7-6	1	A		
016	埴		土師器	平安~鎌倉	20	口径(推) 16.2	—	器高(残) 5.2	S D002		1989・02	2-7	7-19	1	A		
017	埴		瓦	鎌倉	40	口径 16.6	高口径 7.2	器高 5.8	S D002		1989・02	1-6	7-20	1	A		
018	埴		瓦	鎌倉	不	—	高口径 7.2	—	S D002		1989・02	1-2	7-17	1	A		

番号	名称	種別	時代	代時	残存率(%)	法量 (om, g)	遺構名	出土年月	実測図番号	報告書掲載 Fig番号	コンテナ 番号	A・B
KSG-019	埴	瓦器	鎌倉	不明	不明	— 高台径(推) 6.7 器高(残) 3.2	SD002	1989・02	2-8	7-18	1	A
020	鉢(底部)破片	須恵土器	鎌倉	不明	不明	— 底径(推) 6.7	SD002	1989・02	8-33	—	1	B
021	壺(口縁部)	弥生土器	弥生	不明	不明	外口径(推) 27.4 底径 — 器高(残) 10.0	トレンチ No.3	1989・02	2-36	7-1	1	A
022	甕(底部)	弥生土器	弥生	不明	不明	口径 — 底径 6.8 器高(残) 17.8	トレンチ No.4	1989・02	7-30	7-2	1	A
023	坏	土師器	平安~鎌倉	45	不明	口径(推) 16.0 底径 6.0 器高 4.0	トレンチ No.27	1989・02	5-24	7-12	1	A
024	埴	土師器	不明	不明	不明	— 高台径 7.6	//	1989・02	6-28	—	1	B
025	埴	瓦器	鎌倉	25	不明	口径(推) 17.0 高台径 7.8 器高 6.2	//	1989・02	6-27	7-23	1	A
026	埴	瓦器	鎌倉	50	不明	口径(推) 18.4 高台径 8.0 器高 5.3	//	1989・02	5-25	7-21	1	A
027	埴	瓦器	鎌倉	70	不明	口径 16.5 高台径 7.9 器高 6.2	//	1989・02	6-29	7-22	1	A
028	甕(口縁部)	弥生土器	弥生	不明	不明	未計測	トレンチ No.35	1989・02	—	—	1	B
029	小皿	土師器	鎌倉	85	不明	口径 9.4 底径 6.4 器高 1.7	トレンチ No.43	1989・02	5-23	7-7	1	B
030	埴	土師器	不明	不明	不明	— 高台径(推) 7.5	トレンチ No.43	1989・02	5-22	—	1	B
031	碗	白磁	不明	不明	不明	— 高台径 6.0 器高(残) 3.8	包含層	1989・02	3-9	7-25	1	A
032	器種不明	滑石製品	不明	不明	不明	— 器高(残) 7.5	トレンチ No.43	1989・02	7-32	7-26	1	A

開成小学校内遺跡I種

地区名	種別	時代	遺構名	出土年月	コンテナ番号	袋数	備考
	弥生土器, 土師器 瓦器	弥生・平安・ 鎌倉	SD001, SD002, 包含層 トレンチNo.3, 4, 10, 27, 34, 35, 43, 44, 51	・ 1989・02	2	13	

開成小学校内遺跡II種

佐賀市文化財調査報告第27集

開成小学校内遺跡

平成2年3月31日

発行 佐賀市教育委員会
佐賀市栄町1番1号

印刷 (株) 宮地印刷
佐賀市長瀬町11-20